



江東区

洪水

荒川の堤防が決壊したときの
災害避難地図(想定し得る最大規模)
ハザードマップ

浸水の深さ

保存版

避難に関する情報

江東区は、荒川の水位、上流の雨、今後の台風の発達について検討し、警戒レベルに応じて取るべき行動を以下のとおり発令します。

緊急安全確保

災害が発生又は切迫している状況です。
命を守るための最善の行動をとりましょう。

警戒レベル
5

〔警戒レベル4までに必ず避難!〕

避難指示

速やかに避難先へ避難しましょう。
避難場所までの移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。

警戒レベル
4

高齢者等避難

避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児など)とその支援者は避難をしましょう。
その他の人は、避難の準備を整えましょう。

警戒レベル
3

大雨・氾濫・高潮注意報

避難に加え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。

警戒レベル
2

早期注意情報

災害への心構えを高めましょう。

警戒レベル
1

※「警戒レベル5相当、警戒レベル4相当、警戒レベル3相当」など、この「相当」が付く情報は江東区が発信しているのではなく、水位や警戒の情報をともに国・マスコミなどが発信しているものです。「警戒レベル〇相当」という表現があっても、区から必ず避難指示などを発表するわけではありません。雨や河川の情報を総合的に判断し、発信します。

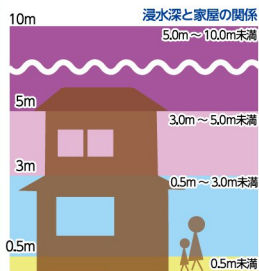
※洪水は台風が過ぎ去った後に発生する場合があるので、油断せず、避難情報をよく確認するようにしてください。

※詳細は、江東区洪水高潮ブックレットのP.11-12をご覧ください。



江東区の防災情報

浸水した場合に 想定される水深



判断の目安

A.P.+7.70m 氾濫危険水位

A.P.+6.50m 避難判断水位

A.P.+4.10m 氾濫注意水位

岩淵水門(上) 水位観測所

※岩淵水門(上)は、警戒の基準となる水位を観測するための水位観測所です。江東区はこの岩淵水門(上)の水位に基づき協議し避難情報の発令を行っています。

凡例(洪水)

- カメラ設置箇所
 - 水位観測所
 - 避難先
 - 主な公共施設
 - 「地盤が高い・浸水しない区域」・公園・広場がある
 - 水害時、特に危険となる箇所
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域
 - 流速が大きく、木造家屋が倒壊する恐れがある区域
 - アンダーパス
- アンダーパスとは
周辺より低く水が溜まりやすい
ため注意が必要な箇所



川の防災情報

命を守るために
早めの避難を検討!

大量の降雨が継続することにより、荒川が氾濫するおそれがある時は、あらかじめ浸水しない地域の親戚、知人宅などへ避難を検討しましょう。

命を守る
緊急手段
垂直避難

ご自身の建物・最寄りの避難先
(マップに●マークがついている施設)の
想定される水深より高い場所に避難

おおよその距離と 時間を測ってみよう

1000m 歩くのに、
15分が目安です。



江東区音声版
「コトミちゃん」

1000m歩くのに必要な時間は、おおよそ15分が目安です。ただし、歩道の状況や、ご自身の体力により、さらに時間が必要な場合があります。おおよその距離を測り、必要な時間を把握し、余裕を持った避難を心がけましょう。

荒川水系 荒川洪水浸水想定区域図 (想定最大規模)

作成主体 : 国土交通省関東地方整備局
荒川下流河川事務所
指定年月日: 平成28年5月30日

対象とした降雨
荒川流域の72時間総雨量 632mm

江東区では、現在洪水、内水、高潮の3種のハザードマップと、水害時の避難に関する情報や、江東区の治水対策の歴史や洪水氾濫、高潮氾濫のメカニズムなどを掲載している「江東区洪水高潮ブックレット」を公開しています。
また、これらハザードマップの情報を音声版として「江東区音声版水害ハザードマップ」に収録しています。合わせてご参考ください。



●水害ハザードマップ
(洪水、内水、高潮)
●洪水高潮ブックレット



江東区音声版
水害ハザードマップ

1: 25,000

0 0.25 0.5 1 1.5 2 km



江東区洪水ハザードマップ

浸水の時間

洪水氾濫による浸水、排水の想定条件

- 荒川において、想定し得る最大規模の降雨により、水が河川の堤防を越えた場合や、堤防が壊れた場合を想定しています。
- 洪水氾濫で市街地などに溜まった水は、排水施設（排水機場・ポンプ所など）により河川・運河へ排水することを想定しています。
- 排水施設が浸水した場合や、備蓄している燃料が無くなった場合は、排水が出来なくなることを想定しています。

保存版

浸水継続時間の凡例

- 2週間以上の区域
- 1週間～2週間未満の区域
- 3日～1週間未満の区域
- 1日～3日未満の区域
- 12時間～1日未満の区域
- 12時間未満の区域

凡例（洪水）

- カメラ設置箇所
- 水位観測所
- 避難先
- 主な公共施設
- 地盤が高い・浸水しない区域
- 公園・広場がある
- 水害時、特に危険となる箇所
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
- 流速が大きく、木造家屋が倒壊する恐れがある区域
- アンダーパス
- アンダーパスとは
- 周辺より低く水が溜まりやすいため注意が必要な箇所

避難する時の留意点

- 情報収集しましょう
- ラジオ、テレビ、インターネットで最新の情報に注意しましょう。
- 避難の呼びかけに注意を
- 落着いて避難しよう
- 避難情報を確認したら、落ち着いて行動しましょう。
- 動きやすい格好がお勧めです
- 足元に注意！
- 浸水しているため足下の危険が分かりにくくなっています。足下を確認しながら避難しましょう。
- 万が一、逃げ遅れた場合には
- ご自宅や、最寄りの公共施設において想定される水深より高い場所に避難しましょう。

令和元年台風第19号では、江東区洪水ハザードマップに示した、大規模な浸水が確認されました。



令和元年台風第19号通過後の荒川下流（北区、荒川本町付近 10月13日13時頃 約A.P.+7.01m（江東区洪水ハザードマップより約70cm高い状態））

1 : 25,000

0 0.25 0.5 1 1.5 2 km

改訂年月：令和8年8月 印刷物登録番号（8）41号

編集発行：江東区土木部 河川公園課 TEL：03（3647）2538／総務部 危機管理室 防災計画課 TEL：03（3647）9587

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。（承認番号）31都市基盘整第160号、（承認番号）31都市基盘整第216号

おおよその距離と時間を測ってみよう

- 1000m
- 1000m歩くのに、15分が目安です。
- 1000m歩くのに必要な時間は、おおよそ15分が目安です。ただし、気流の発生や、ご自身の体力により、さらに時間が必要な場合があります。おおよその距離を測り、必要な時間を把握し、余裕を持った避難を心がけましょう。

荒川水系 荒川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）

作成主体：国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所
指定年月日：平成28年5月30日

対象とした降雨
荒川流域の72時間総雨量 632mm